|  |
| --- |
| 根上中学校１年　道徳だより輝 ― かがやく ―　　　　令和３年１２月２３日（木）　ＮＯ．２　 |

『 「ソーセージ」の悲しい最後 』

　北海道の最東北端に位置する知床。生物の多様性と海・川・森の生態系のつながりが評価され、2005年には世界自然遺産に登録された。そんな知床では、人と自然の関わり方について、多くの課題も浮かび上がってきている・・・コードネーム９７Ｂ－５、またの名は「ソーセージ」。彼女は野生のヒグマである。一本のソーセージによって、彼女の人生が狂い始める。彼女にとって人や車は警戒の対象から、食べ物を連想させる対象に変わった。どんどん人に慣れていき、ついには駆除されてしまう。

　一本のソーセージをきっかけに命を落とすことになった

ヒグマのエピソードから、自然と共に生きていくことや、

これから自然とどのように関わっていくべきかについて考え

ました。

～ みんなの学び ～

◇動物にしてはいけないことをやってしまうと、動物や人間の命に関わることだなと改めてわ

かったので、気をつけていきたいです。

◇自然の動物とは関わるのが難しいけど、その自然と関わるのが必要で、関わっていくうえで、

行動や考え方に気をつけたいと思いました。

◇自分たちのせいで、殺される動物もいるんだなと思いました。もし、くまなどの動物に出会っ

ても餌をあげないなどのルールを守っていきたいです。動物についても考えていきたいです。

◇誰かが軽い気持ちでとった行動で、たくさんの人に迷惑がかかることがわかりました。また、

人と自然がより良い関係を築くには、無理に近づこうとしないことが大切だとわかりました。

◇野生の動物に対しての行動、生命の大切さがわかりました。自分も野生動物と出くわしたら、勝手な行動をしないようにしたいです。

◇「地球は人間だけのものではない」という意見を聞いて、とても共感した。自然とうまく生きていくためには、一人一人が地球に与える影響を考えないといけないと思った。

◇クマなどの野生動物に出会っても、エサを与えないようにしたいです。野生動物にエサをあげることによって、悲しい最後を迎える動物がいなくなるように、そこに住んでいる人のことを考えてから行動したいです。

◇今日の授業で野生動物の命の大切さを学ぶことができました。軽い気持ちでやったことが、１つの命を奪ってしまうこともあるとわかったので、野生動物に勝手なことをしないでおこうと思いました。

◇自分のその場の気持ちだけで野生動物に食べ物などをあげるのは、今だけでなく、これからの生態系をこわしてしまう原因にもつながるんだと思いました。

◇世の中は、人間と動物がある意味、共存しているとはいえないなと思った。まだ、今回のお話のようなことが起きていては、私たち人間の身勝手な行動で動物の命を奪ってしまうことは、これからもずっと続いていってしまうかもしれないので、だんだんとこの問題が改善されていけばいいと思った。

◇野生動物を見つけても、近づいたりエサをあげたりしないようにしたいです。人間のせいで、死ななくてもいい生き物が死んでしまうのはおかしいなと思いました。人間のせいで死んでしまった生き物たちは何も悪いことをしていないのにと考えると、エサやりなどはしないで、野生の生き物たちが人を警戒し続ける社会になればいいなと思いました。

◇ちょっとしたことでも（良いと思ったことでも）、命を奪うことにもなるかもしれないから、先のことをしっかりと考えて、動物には近づかないことや、しないといけない行動をしっかり考えることが必要だと思った。

◇身近な場所で動物は見たことはあまりないけど、もし会ったときの対応をどうしていくべきか考えたことがなかったので、すごく良い学習になったと思いました。自分が考えたことやその考えたことにつなげてどのような行動をしていくか忘れないようにしようと思いました。

◇思い返してみると、昔、生き物や植物を大事にしてこなかった自分が情けなくて、本当に申し訳ないことをしたなと思った。自分ができる小さなことで、少しでも自然が変わるなら行動してみようと思った。

～ ３学期の“道徳”では ～

　２学期も道徳の授業を通して、自分自身と見つめ直したり、家族や友達、先生、地域の方々などの周りの人との関わりについて考えたりすることができましたね。３学期の道徳の授業では、さらに視野を広げて考えを深めたり、自分の日常生活や今後の人生に関連付けて考えたりしてみましょう。みなさんがよりよい人生を送るためのヒントと出会えることを願っています。